

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人間福祉学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 使命・目的との適合性、および学術の進展や社会との要請との適合性の観点から、学部研究組織の編成原理や編成のあり方を検証する。	→各学科による年1回の検証。	B	B	B	B	B
2. 実習・インターンシップのサポート体制と組織のあり方について検証する。	→各学科による年1回の検証。	—	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「使命・目的との適合性、および学術の進展や社会との要請との適合性の観点から、学部研究組織の編成原理や編成のあり方を検証する」という目標については、学部内における研究会や研究紀要の発行を通じて定期的実施している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学部・学科のあり方については、具体的な課題であるカリキュラム再編や入学者選抜のあり方などを通じて不断に検討されており、教職員間でも周知・共有がおおむね図られている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部創設7年目であり、創設時の教員が多く在席していることから、現状では、教育研究組織のあり方を不断に見直していく姿勢は堅持されているが、今後、入れ替わりがあるなかで、その継続が課題である。また検討結果の集約も課題である。	☆
		その他	
			☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「実習・インターンシップのサポート体制と組織のあり方についての検証」については、実践教育支援室を設け、専任職が実習及び実践教育を支えるとともに、委員会を設置し、定期的に検証している。また、学科会議でも検証を行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 実践教育についてはその成果や進捗状況、課題等を年度末報告書等でまとめている。また、参加学生による報告会振り返りを行うなど、その成果の周知にも努めている。サポート体制や組織のあり方については、さらに踏み込んだ検証が必要である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か サポート体制や組織のあり方について、その具体的な手法を含めて検討課題としたい。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆